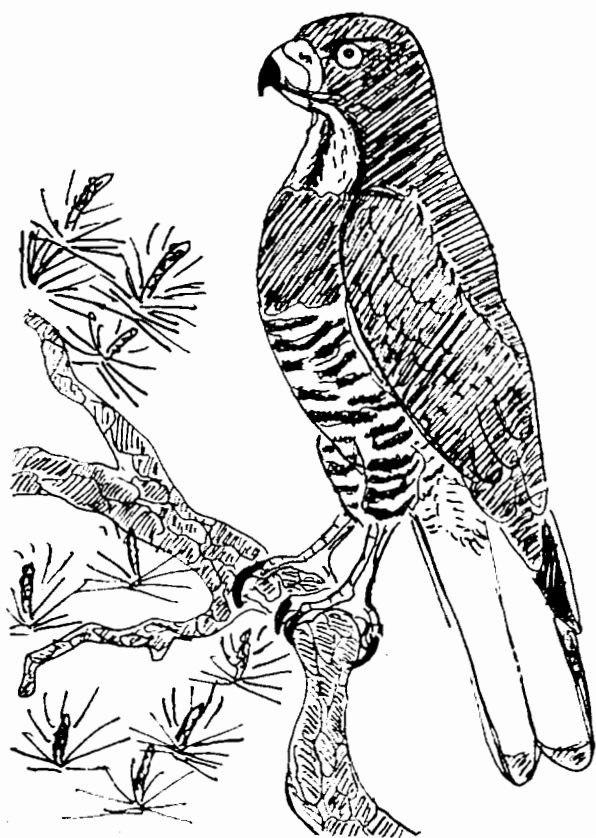


しろちどり

第 58 号

特集：三重県支部総会
チュウヒサミット 2008



K. Kikugawa

2008 年 7 月 日本野鳥の会 三重県支部

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

平成 20 年 6 月 21 日土曜日に、ヨシ原生態系のシンボルであるチュウヒの繁殖地・越冬地の保全をめざして、チュウヒサミット 2008 が名古屋市天白区名城大学で開催されました。

当日の様子をお知らせします。



開会の挨拶 三重県支部 平井支部長

1. 基調講演 渡良瀬遊水地におけるチュウヒの越冬生態と湿地環境

NPO 法人バードリサーチ 平野敏明

チュウヒ *Circus spilonotos* の繁殖分布は、ロシアのバイカル湖付近からウスリー地方、モンゴル、中国北東部、日本などである。イルクーツク付近のヨーロッパチュウヒとの分布が重なる地域では頻繁に交雑が起きていることが報告されている。現在、日本では 10 数か所で繁殖が認められているが、多くは冬鳥として飛来する。

前回のチュウヒサミットによって、日本で繁殖するチュウヒのつがい数が 50~60 つがい前後であることが明らかになるとともに、その一方、繁殖個体数が少ないこともあり、繁殖期の食性をはじめ営巣環境の特性など科学的な基礎データの少なさも明らかになった。今回は、渡良瀬遊水地における越冬期の環境利用や時調査による新たな全国調査の提言、外国での事例などについて報告があった。



チュウヒ Harriers

全国各地の繁殖地・生息地から



チュウヒサミット 2008

主催 日本鳥類標識協会 編集 近藤義孝
発行 日本鳥類標識協会 印刷 日本鳥類標識協会
発行所 日本鳥類標識協会 発行所

2. 各地からの報告

○新潟県におけるチュウヒの生息状況、特に新潟市で認められた一過性繁殖

千葉 晃 日本歯科大学新潟生命歯学部

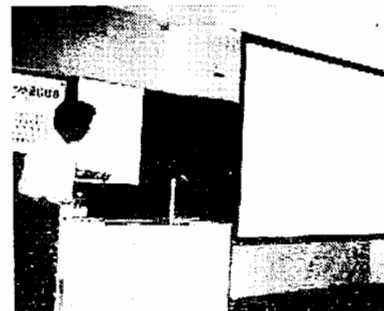
チュウヒについては、日本国内における分布、繁殖、移動等いずれに関しても情報が少ないように思われる。新潟県の生息状況（概況）と共に新潟市佐潟で認めた一過性の繁殖について概要が報告された。



○チュウヒの雌雄・年齢による虹彩などの変化について

日本鳥類標識協会 中川富男

河北潟におけるチュウヒの繁殖状況については、チュウヒサミット 2006 で報告した。河北潟で観察した虹彩の色の変化や雌雄それぞれの成長に伴う変化を発表された。

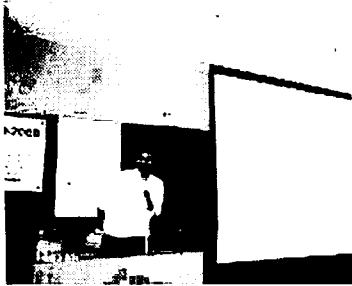


○木曾岬干拓地のチュウヒの繁殖状況と冬季のねぐらについて

日本野鳥の会三重県支部 近藤義孝

2002年より木曾岬干拓地でチュウヒの繁殖調査と、冬季の猛禽類のねぐらの調査を行ってきた。

今回はその後の木曾岬干拓地でのチュウヒの繁殖状況と、近隣で観察されているチュウヒの繁殖状況と木曾岬干拓地の状況について報告した。



○絶滅危惧猛禽チュウヒの生息環境評価 ～苦小牧勇弘弁天沼を事例として～

笹森 健太 北海道工業大学大学院

チュウヒの生態を知ることは、今後保護や保全計画を推進していく上での科学的根拠として非常に重要である。今回はチュウヒの行動圏の調査を行い、飛行ルートと植生との関係を分析して生息に必要な環境条件を評価した。



○国内のチュウヒの現状と晒されている脅威

浦 達也 (財)日本野鳥の会自然保護室

全国にはすでに消失したチュウヒの繁殖地もあり、繁殖を続けている営巣地もある。しかし、ほとんどの繁殖地では、何らかの脅威に晒されている場合が多い。今回の発表ではこういった情報を共有するため、各地でのチュウヒの置かれている状況とさらされている脅威について発表があった。



3. チュウヒサミット提言

最後に、チュウヒサミット提言として以下の文章が採択され、環境省・三重県・愛知県などへ送付した。

チュウヒサミット 2008 提言

2年前に、チュウヒに関する日本で初めてのシンポジウムである「チュウヒサミット2006」が開催された。

このシンポジウムの開催により、全国各地からチュウヒの生息や繁殖活動についての情報や報告が寄せられ、日本国内における生息状況がある程度明らかにされた。

それは私たちが懸念したとおり、政府レベルで保護指針が打ち出されているイヌワシ、クマタカ、オオタカなどよりも、日本ではさらに絶滅の危険が迫っている希少な猛禽類の一種であることが判明したといえる。

全国に点在する数少ないチュウヒの生息地は、主に干拓地や埋立地内にあったり、開発計画地やその近接地であるなど、その生息環境はきわめて存続が不安定な場所が大部分を占め、永年にわたり安定的に生息地として存続することが危ぶまれる。

2年後の2010年には、愛知県名古屋市において「第10回生物多様性条約締約国会議」(COP10)が開催される予定であるが、その足元の愛知・三重県境にある「木曾岬干拓地」においては、すでに干拓地の北部地域に土砂が搬入され、不急の野外レクリエーション用地に造成されつつあり、チュウヒの主な生息・繁殖環境であるヨシ原が大規模に失われている。

さらに、三重県の議会や行政内部では、干拓地の「高度利用」と称する開発計画策定が論議され、開発に向けた地盤のボーリング調査の実施さえ計画されている有様である。

こうした各地のチュウヒの生息環境が失われる可能性が高い状況にありながら、政府や地方自治体による開発圧力が一向に規制されないということは、生物多様性の保持の重要性からも看過することはできない。

世界的な開発行為の拡大により、人類の知らないあいだに絶滅していく生物種が膨大な数に上るとい警告は、日本国内においても同様であるということに注意を喚起する必要がある。

手をこまねいては、本当に手遅れとなることを、私たちは声を大にして社会全体に警告しなければならない。

豊かな自然環境の保全こそ、生物多様性を保持する根本条件であり、とりわけ日本国内においては最も開発行為の最前線となっている里山環境と河口湿地環境の保全に国全体が全力をあげなければならない時である。

- ・ チュウヒの生息・繁殖する自然環境を特別保護区とし、すべての開発行為を規制すること
- ・ 外来動植物の増殖や人間の水環境操作による湿地の陸地化など、ヨシ原環境の減少を押し留めること
- ・ ヨシ原環境内やその周辺におけるレジャー行為によるヨシ原破壊やチュウヒの繁殖活動への妨害行為を規制すること

等々、早急に諸々の対策が実施されねばならない。

温暖化の影響による自然災害の多発と強大化により、大きな被害を蒙っているのは人間ばかりでなく、多くの動植物も同様に、あるいは人間以上に被害を蒙り、絶滅の危険が加速度的に強まっていることを忘れてはならない。

豊かな自然環境の保持こそ人類存亡のカギであることをこんにちほど痛感させられることはないのである。

ヨシ原生态系のシンボルであるチュウヒの繁殖地・越冬地を保全しよう！



チュウヒサミット 2008 宣言を読み上げる
愛知県支部 加藤副支部長



閉会の挨拶 愛知県支部 高木支部長



会場風景

2008 年度日本野鳥の会三重県支部総会開催

2008 年 5 月 18 日 13 時 30 分～15 時 00 分
津ヨットハーバー 2 階大会議室

5 月 18 日（日）、2008 年度日本野鳥の会三重県支部総会が開かれました。4 月現在の会員数は 363 名、総会への出席者 33 名、委任状提出者 154 名で計 187 名、会員の過半数に達し総会が成立しました。

まず平井正志支部長から挨拶があり、自然環境の変化を指摘、そのなかで海岸におけるレジャーの多様化でシギ・チドリへの影響や、相次ぐ風力発電建設計画では、クマタカの営巣地やサシバの渡りのルート上に計画があることを危惧されました。また、昨年の総会において支部の税申告する方針を示し、過去 5 年間の税金を支払ったことを報告しました。

続いて議長に前澤昭彦理事、川村晴彦氏の両名が選出され、議事録署名人に中井節二氏、小野新子氏を指名しました。以下、各項目について承認されました。

議事

- 1) 2007 年度活動報告
【保護部、研究部、編集部、企画部、事務局】
- 2) 2007 年度決算報告、監査報告
【事務局会計担当、監事】
- 3) 2008 年度役員候補
【事務局】

目 次	
特集：チュウヒサミット 2008	1
三重県支部総会報告	4
表紙の言葉	6
野鳥情報	8
支部野鳥記録の受付担当雑感	8
事務局だより	12
本部よりのお知らせ	13
探鳥会報告	14
北勢地区地区会情報	17
しろどり原稿募集	17
編集後記	17



開会挨拶 平井支部長

- 4) 2008 年度活動計画
【保護部、研究部、編集部、企画部、事務局】
- 5) 2008 年度予算
【事務局会計担当】

2007 年度活動報告

2007 年度保護部活動報告

1) 猛禽調査

○北勢地方クマタカ繁殖調査

自主調査として調査を継続した。

昨年（2007 年）は抱卵を開始した模様であったが、5 月初めには巣を離れており、繁殖に失敗した。（2006 年に繁殖成功、幼鳥 1 羽 巣立ち）

○中勢地方オオタカ繁殖調査

県の委託事業として調査を継続した。

昨年（2007 年）は繁殖に失敗した。本年（2008）はほぼ順調に繁殖中

○木曾岬干拓地調査（チュウヒ）

盛り土工事、および芦原造成工事が進んでいる。愛知県支部、名古屋鳥類調査会と共同で継続した。昨年（2007 年）は 2 カ所で繁殖行動が確認でき、幼鳥も見られた。本年も同様に 2 カ所での繁殖行動を観察している。

2) 海岸問題

カイトボード、ジャイロカイトなど海岸でのレジャーが盛んになり、シギ・チドリなど水鳥の棲息と繁殖を脅かす可能性が高くなった。海岸の調査に参加している支部会員を集めて会議を行った（12/15）。

○中勢五主海岸水鳥調査

2008 年 3 月 2 日に中ノ川（旧河芸町）から

中ノ川（松阪市）までを調査。約 50,000 羽の水鳥を記録した。スズガモがもっとも多かった。当地域を「三重中勢五主海岸」としてラムサール条約に登録する運動を進める。

3) チュウヒサミット

6月21日（土）名城大学天白キャンパス
22日（日）午前 木曾岬干拓地の現地視察

4) 風力発電問題

○鳥羽行者山風力発電に関連しての猛禽渡り調査 2007年10月5、6日行った。

5日にはサシバ507羽、6日には239羽を観察した。行者山が渡りに重要であると認識された。

○度会町の風力発電建設にともなう環境影響評価方法書について意見を提出した。

渡りの調査を十分に行うこと、猛禽の繁殖の可能性が極めて高い。

5) 野鳥記録収集方法を変更し、収集に努力した。

2007年度研究部活動報告

1. 委託調査

県委託ガン・カモ科鳥類一斉調査 調査地点：184ヶ所 調査員：47名

2. WWFシギ・チドリ類モニタリング調査

鈴鹿川、白塚海岸、安濃川、五主海岸、愛宕・金剛・櫛田川 の5地点
各地点で年3回（春期、秋期、冬期）実施

2007年度編集部活動報告

55号 特集：探鳥旅行 20ページ

56号 特集：外来種・移入種 24ページ

57号 特集：三重県に関係した小説・民話・短歌・俳句に登場する鳥類 18ページ

目標である4号の発行ができず3号の発行に終わった。また、会員の交流を図れるような誌面にできなかった。

2007年度企画部活動報告

2007年度は合計44回の探鳥会を企画した。そのうち4回は雨または雪で中止し、40回が開催さ

れた。定例探鳥会は木曾岬干拓地で12回、海蔵川で4回行った。その他詳細は、探鳥会報告は支部報に掲載した。

野鳥講座は10月14日白塚・町屋海岸探鳥会の後に行った。

クマタカ生態学習会「クマタカの生態と保護」

講師：日本クマタカ生態研究グループ

山崎 亨 氏

なお、企画部で探鳥会の計画および報告形式について検討し、新たな方式を導入し、探鳥会計画は年1回、年度初めに決定することとした。詳細は行事案内でお知らせしてある。従来から探鳥会計画書や結果報告の遅れが目立つ。探鳥会リーダーの方の協力をお願いする。

2007年度事務局報告

1. 総会 2007年5月20日（日） 三重県総合文化センター（中会議室）

2. 理事会

第1回5月20日（日）

三重県総合文化センター（中会議室）

第2回8月5日（日） 津市雲出市民センター

第3回11月4日（日）津市雲出市民センター

第4回2008年3月9日（日）

津市雲出市民センター

3. 委託調査

○県委託カワウねぐらコロニー調査 22地点
年3回（7月、12月、3月）調査者23名

○鈴鹿市の自然ガイドブック執筆（鳥類）業務委託

2008年度役員候補

副支部長は空席でしたが、今年度より副支部長を置くことを理事会で決め、副支部長に現編集部長の近藤理事が、また都合により3名の理事（川口、村田、山田）が退任しましたので、以下2名の理事候補が承認されました。

近藤義孝（副支部長候補）現編集部長 北勢

岡八智子（理事候補）津

小坂里香（理事候補）

南勢

表紙の言葉

北川和則（多気町）

サシバで思いつくのは、秋の渡りですね。自分には、もう一つ思い出すことがあります。よく夏になると、ピクチャーと鳴きながら家の裏山を飛んでいたのをなつかしくおもいだします。今もこの鳥を見れば、幼い日がよみがえります。

2008 年度活動計画

2008 年度保護部活動計画

1. 北勢地方クマタカ繁殖調査：自主調査として継続する
2. 中勢地方オオタカ繁殖調査：委託調査として継続する
3. カイトボード等の海岸問題：県の担当者と会談し、解決方法を探る
4. 三重中勢五主海岸ラムサール登録運動：継続する
5. チュウヒサミット 6月開催
6. 風力発電問題

風力発電そのものには反対でないが、個々の事例で野鳥、特に貴重な猛禽類への被害が考えられる場合には個々に対処する。鳥羽市行者山での建設計画、および津市伊賀市笠取山にシートックが建設中の風力発電については反対の態度をとっている。前者はサシバなど渡りのルートにあたり、また後者はクマタカの営巣域である。最近も3月16日に建設地真上で支部会員らによりクマタカの飛行が観察された。

度会町：独自に猛禽調査を行う。

鳥羽市行者山：建設に反対であり、企業側の動きに注目していく。

松阪市白猪山：方法書について意見を述べる予定

2008 年度研究部活動計画

今年度についてもガン・カモ科鳥類調査、シギ・チドリ類調査を行なっていく。

2008 年度編集部活動計画

3号から4号の発行を目指したい。カラー印刷での発行も行いたい。

2008 年度企画部活動計画

探鳥会については現在50回を計画し、うち10回は既に実施されている。今後年度途中での探鳥会企画が立案されれば受け付ける。詳細は行事案内を参照ください。

また、野鳥講座については総会后第1回（名城大学 新妻靖章先生による）を開催。今後も順次企画したいので支部会員の皆様からの要望を承ります。

- 4月6日（日）藤原岳山麓
- 4月13日（日）春の獅子ヶ岳メモリアル登山
- 4月20日（日）五主海岸
「干潟・湿地を守る日 2008 参加行事」
- 4月26日（土）県民の森
- 4月27日（日）奥山権現
- 4月27日（日）木曾岬干拓地
- 5月4日（日）志原水田・御浜町志原
- 5月10日（土）朝明源流・菰野町朝明
- 5月11日（日）五十鈴川上流早朝
- 5月11日（日）野登山
- 5月20日（火）海蔵川
- 5月25日（日）木曾岬干拓地
- 6月7日（土）美杉村・三重大学演習林
- 6月22日（日）雲出川右岸河川公園
- 6月22日（日）木曾岬干拓地
- 7月26日（土）ねぐら入りを見る（外城田川河口）
- 7月27日（日）木曾岬干拓地
- 8月24日（日）木曾岬干拓地
- 9月14日（日）高松海岸
- 9月16日（火）海蔵川
- 9月21日（日）多度山
- 9月21日（日）ハリオアマツバメを見る・伊賀市法花
- 9月28日（日）～10月4日（土）伊勢タカ渡り・伊勢市やすらぎ公園
- 9月28日（日）木曾岬干拓地
- 10月4日（土）タカ渡り・相津峠
- 10月5日（日）鳥羽行者山タカ渡り
- 10月13日（祝）金剛川・櫛田川河口
- 10月19日（日）町屋浦ミュビシギ
- 10月26日（日）木曾岬干拓地
- 10月26日（日）中村川

- 11月15日(土) 香良洲海岸
- 11月23日(日) 木曾岬干拓地
- 11月30日(日) 服部川河川敷
- 12月6日(土) 松阪ベルファーム
- 12月9日(火) 海蔵川
- 12月14日(日) 神路ダム
- 12月23日(火・祝日) 安濃ダム
- 12月28日(日) 木曾岬干拓地
- 2009年
- 1月18日(日) 銚子川河口
- 1月25日(日) 木曾岬干拓地
- 1月25日(日) 宮川・外城田川
- 2月15日(日) 木曾三川
- 2月15日(日) 薦原・名張市薦原
- 2月22日(日) 安濃川下流・津市鳥居町
- 2月22日(日) 木曾岬干拓地

- 3月1日(日) 朝熊山麓・絆の森バードウォーキング
- 3月1日(日) 石垣池
- 3月1日(日) 中部台運動公園・松阪市
- 3月17日(火) 海蔵川
- 3月22日(日) 木曾岬干拓地

2008年度事務局活動計画

1. 総会 2008年5月18日(日)
2. 理事会第1回 5月18日(日)
- 第2回 8月3日(日)
- 第3回 11月8日(日)
- 第4回 2009年3月7日(日)
3. 委託調査 県委託カワウねぐらコロニー調査を引き受ける予定

野鳥講座(5月18日総会終了後)

「海鳥と海洋環境 長期モニタリングでわかること」

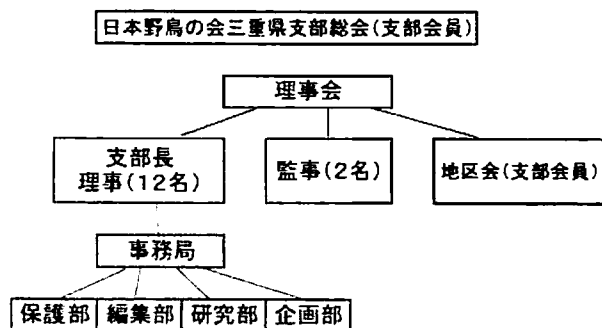
名城大学農学部 新妻靖章准教授

長く天売島で海鳥のモニタリング調査をされた新妻准教授より、ウトウやウミネコなどの繁殖生態調査、餌環境の変化の影響についての講演でした。



新妻靖章氏の講演

日本野鳥の会三重県支部組織図



2008年度役員名簿

役職	氏名	地区
理事・支部長・保護部長	平井正志	津
理事・副支部長・編集部長	近藤義孝	北勢
理事・事務局長	西村泉	南勢
理事・会計担当	中西章	松阪
理事・事務局	竹林康	南勢
理事・事務局	○小坂里香	南勢
理事・研究部長	前澤昭彦	伊賀
理事・企画部長	石原宏	津
理事・企画部	○岡八智子	津
理事	西村四郎	松阪
理事	塗矢博一	伊賀
監事	加藤光廣	北勢
監事	小林達也	伊賀

○2008年度新任

野鳥情報(2008年4月～08年6月に報告のあったもの)

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	報告者氏名	備考	写真
ユリカモメ	1	2008/3/21	津市町屋海岸	石原 宏		○
ヒメウ	1	2008/4/5	明和町川尻の海岸。	安達直孝		○
ノビタキ	1	2008/4/6	南牟婁郡御浜町志原	中井節二		
ジシギ類	1	2008/4/6	三重県南牟婁郡御浜町志原	中井節二		○
アリスイ	1	2008/4/6	南牟婁郡御浜町市木	中井節二		○
カナダカモメ	1	2008/4/6	津市白塚町町屋海岸	安達直孝		○
クロツラヘラサギ	1	2008/4/6	松阪市高須町	中西 章		○
ウズラ	1	2008/4/9	三重県南牟婁郡御浜町市木	中井節二		○
ツバメチドリ	1	2008/4/12	三重県南牟婁郡御浜町志原	中井節二		○
オオルリ	1	2008/4/13	度会町小萩	小坂里香		
ケアシノスリ		2008/4/13	木曾岬干拓地	横山真一		
ムネアカタヒバリ	1	2008/4/13	御浜町市木	中井節二		○
オバシギ	2	2008/4/13	鈴鹿市南若松町(千代崎海岸)	安達直孝		○
クマタカ	1	2008/4/26	度会町川上	小坂里香		
サシバ	1	2008/4/26	度会町川上	小坂里香		
アオバズク	1	2008/4/29	度会町宮の西	小坂里香		
コアジサシ	50	2008/4/29	津市住吉町(安濃川河口)	田中洋子		○
キアシシギ	138	2008/5/3	松阪市曾原新田五主海岸	平井正志		○
ミユビシギ	191	2008/5/3	津市河芸町豊津浦海岸	平井正志		○
ホトトギス	1	2008/5/14	度会町棚橋宮川	小坂里香		
ホトトギス	1	2008/5/17	伊勢市宇治浦田3丁目	杉原 豊		○
アオバズク	1	2008/5/17	伊勢市二見町西の大楠	杉原 豊		○
セイタカシギ	2	2008/5/17	松阪市獵師町 獵師漁港裏の池	中西 章		○
ハジロクロハラアジサシ	1	2008/5/20	鈴鹿川派川河口の入江部砂浜	川崎道夫		○
ヨシガモ	1	2008/6/19	玉城町勝田大池	小坂里香		
アカシヨウビン	1	2008/6/21	度会町棚橋または上久具	小坂里香		
オバシギ	5	2008/6/18	鈴鹿川派川河口	横山真一		○
ミヤコドリ	14	2008/6/18	鈴鹿川派川河口	横山真一		○

支部野鳥記録の受付担当雑感

小坂 里香(度会町)

昨年度後半ごろから、野鳥記録受付・集計の担当になりました。その間の雑感などを少し書かせていただくことにします。

まず、なぜ野鳥記録なのか。三重県支部には残念ながら、これまで記録の保存システムが確立されていませんでした。そのため、会員のみなさんや外部から、県内の野鳥の情報について支部に問

い合わせがあっても、基礎となる資料がなかったり、あっても更新されていなかったりして、不明なことが多かったと思われます。他支部では、会員による長年の記録の蓄積を「〇〇県野鳥目録」などの名前で出版したり、HP上で公開したり、CD-ROMなどの形で頒布したりしている所もあります。そこまでは望めなくても、とりあえず、基礎資料としての記録の保存システムは必要なのではないかと思い、お引き受けすることにしま

した。直接皆さんの目に触れる成果としては、支部報への記録掲載という形になります。

私自身は特にパソコンに詳しいわけでもないのですが、他の人より比較的時間に自由がきくせいか、成り行きで支部 HP の開設、運営にも関わってきました。そこで、Eメールの利用者も増加していますし、インターネットを利用すれば、情報収集も比較的簡単なのではないかと思い、昨年9月から HP 上での野鳥記録募集を開始したわけです。

ご報告いただける方は原則として三重県支部会員の方に限り、ご報告いただいたら、まず、メールで返答をさしあげ、疑問点があれば質問し、写真があればお送りいただいています。記録がまとまったところでサーバーからダウンロードし、エクセルの表に読み込んで、誤字や記述の間違い、二重投稿などを修正して写真を整理し、注意書きなどを記入して公開可能な情報と非公開希望のものを区別したあと、保存用として支部長、事務局長、編集部長など関係者にファイルを送信します。その後別途、支部報掲載用原稿を作成しなおしてもらいます。

というような手順で行っていますが、開始後半年あまりを経た感想としては、まだまだ会員みなさんへの PR 不足もあって、思ったほど記録が集まらないということです。現状は、私自身の耳に入ってきた情報を、ご本人にお願いして報告していただくという事例が多いです。また、私自身、自分の観察記録は積極的に投稿するようにしています。そのため、記録報告者にかなり偏りがあります。メールなどで報告をお願いしても無しのつぶてということもあり、正直言って、願うする手間もけっこう負担になっています。

記録が集まらない理由としては、

- 1、HP へのアクセスそのものが少ないため、システムを知らない人が多い。
- 2、パソコンの操作の仕方がわからない、インターネットが使えない。
- 3、どんな観察内容を報告していいのかわからない、情報価値を判断できない。
- 4、自分のプライバシーを公開したくないので、観察記録も報告したくない。
- 5、報告しようと思っけていても、忘れてしまう。
- 6、第一発見者が他にいて、遠慮があつて報告

しない。

- 7、報告することそのものに意義を見いだせない、記録収集に反対である。

など、色々考えられます。もちろん、今まで支部に記録を集めて保存するという習慣が根付いてなかったことも大きいと思います。パソコンの操作がわからなかったり、インターネットを見られる環境にない方は、従来通り、とりあえずお電話などでご連絡いただければけっこうです。問題は、報告システムをご存じで、報告可能な方にもご報告いただけない場合です。3の場合は、とにかく、気になる観察内容はとりあえずご報告くださいとしか申し上げられません。人によって「気になる」基準はそれぞれだと思いますが、ご報告いただいた中から、これは支部報に掲載すべきというものを選択して掲載させていただいていますし、それ以外もデータの形で保存させていただきます。4、5、6、7については頭の痛いところですが、どうしても場合は、匿名での掲載（ご報告は実名で）も受け付けていますし、6の第一発見者への配慮の問題では、備考欄にでも、注記していただければよいのではないかと思います。あくまでも「報告者」としてご報告いただくわけですので、第一発見者が誰であろうと、基本的には無関係だと認識しています。ただ、ご自分がまったく観察していないのに、人からの見聞だけで報告していただくのは問題があると思います。また、第一発見者が周囲への悪影響を配慮して情報を公開しないのに、了承を得ずに支部報に掲載されますと、トラブルになりかねません。その辺は、関係者の間で協議が必要なところだと思います。7については、根本的なところで意見の相違があるので、解決は難しいかもしれません。

次に、今後の課題。

報告フォームが記入しにくいという指摘があります。長期滞在、越冬など、同じ個体に関して重複して報告するのか、などという



報告方法の問題から、レイアウトが見にくいといったご意見まで。また、今のフォームでは、報告者のお手元に控えが残りません。写真も直接添付できません。無料のメールフォームサービスを利用しているため、あまり大きな手直しはできないのですが、細かいことは今後改良させていただきたいと思います。

個別の種に関する記録だけでなく、フィールドノートのような、量的にまとまりのある記録はどうするのかというご意見。これも、現在の報告フォームでは対応できません。私見では、ご本人による投稿の形で支部報に掲載し、残していただくか、CD-ROM にでも複製していただいて寄贈していただければと思います。

内容について。報告主義であるということは、報告していただけない記録は残らないということで、残らない記録の方が遙かに多い現状では、記録収集自体に意味があるのかということです。これについては、できるだけたくさんの記録が集まるように、みなさんのご協力をいただくしかありません。また、すでにほかの学術雑誌や団体機関誌などに発表したものについてはどうか。投稿が重複している場合は、注記していただければよいのではないかと考えています。このような記録収集については、当方も素人で、ノウハウに乏しいので、関係者と相談しながら行うことはもちろん

ですが、学術的な知識のある会員の方がいらしゃれば、ご助言いただければと思う次第です。いたずらや誤報についての懸念もありますが、メールのやりとりなどを通じ、できるかぎり正確な情報把握に努めたいと思います。

次に、ホームページの問題。更新が少ない、見るところが少ない、情報量が少ない。そのためアクセスが増加せず、ついでに野鳥記録を報告する習慣が根付かない。これも、もったいなことで、読んで楽しいコンテンツ、会員専用ページの開設など、もっと魅力あるサイトにする必要があると思います。私自身の力不足、時間不足もあり、なかなか手が回らないため、大きな課題となっています。今後、ホームページ運営に詳しく、意欲ある方のご協力を仰ぎたいところです。

野鳥記録のご報告フォームは支部ホームページの中のこちら↓

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/bird-information-rule.htm

にあります。ぜひご利用、ご意見をお願いします。インターネットが使えない方は、とりあえず、小坂（0596-62-1943）までお電話ください。

事務局だより

支部活動の記録（2008年4月～6月）

- 4/7 鳥羽風力発電建設計画の(株)ユーラスエナジーによる説明会に出席
- 4/24 平成20年度防ダム環境調査委託について県と契約
- 4/29 支部報「しろちどり第57号」発行
- 5/2 松阪市白猪山ウインドシステム発電事業環境影響評価方法書を閲覧
- 5/10 2007年度決算について監査
- 5/22 平成20年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（伊賀・全3通）
- 5/29 平成20年度鳥獣保護区等の指定計画について意見書を提出（四日市・全8通）
- 6/5 カワウ広域フォーラム（滋賀県）に出席
- 6/7 チュウヒサミット打ち合わせ
- 6/9 平成20年度カワウねぐらコロニー調査事業委託について県と契約
- 6/9 伊賀市真泥池鳥獣保護区の区域縮小について意見書を提出
- 6/9 松阪市白猪山ウインドシステム発電事業環境影響評価方法書に対する意見書を提出

- 6/9 県庁を訪問（支部長他 2 名）
- 6/13 木曾岬干拓地のコアジサシ調査
- 6/21 チュウヒサミット 2008
- 6/24 鳥羽市議会を傍聴
- 6/25 委託調査変更について三重県津庁舎へ

● 今後の予定

- 8/3 第 2 回理事会

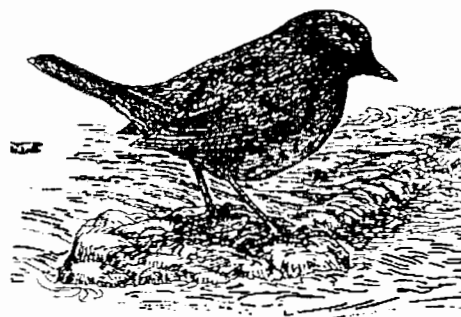
理事会報告

第 1 回（2008 年 5 月 18 日 13 時 30 分～16 時 30 分）

津市ヨットハーバー 出席者 11 名

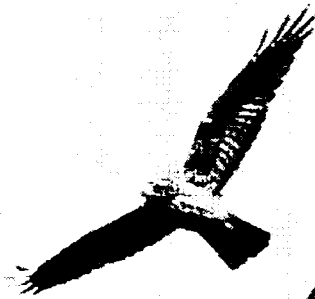
【協議事項】

- 総会について 役割分担と進行について
- 野鳥講座運営
- チュウヒサミット（6 月 21 日（土））
- 中部ブロック会議 11 月 2 日、3 日 新潟（4 名出席予定）
- 2007 年度会計決算、2008 年度予算案について
- 探鳥会報告の名簿については、新しい名簿を作る（事務局） 名簿は当面担当者保管
員弁地区で近藤が担当する探鳥会を追加する 10 月から 12 月 3 回 HP 等に記載



	取扱商品 フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	取扱メーカー KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他
中部地区最大の光学製品専門店	
TELESCOPE CENTER EYEBELL	
テレスコープセンターアイベル（株式会社アイベル） 〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119 定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00 ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc	

(財) 日本野鳥の会からのお知らせ



協賛: 興和(株) 



秋に勇壮なタカの渡りが見られることで有名な伊良湖岬は、愛知県渥美半島の先端にあり、繁殖期を本州で過ごしたサシバなど夏鳥たちがここに集まって渡っていく重要な中継地です。

この地に柳生博会長と全国の会員が集い、野鳥と自然を楽しむエコツアーを計画しました。

かつて全国から会員が集って行われた「日本野鳥の会全国大会」を思わせるプランです。普段は離れている会員同士が、バスで渥美半島を巡り、鳥たちの渡りのドラマに感動し、人と自然の共存を考えることになるでしょう。ホテルでは柳生会長の講演や、参加者との記念撮影などが楽しみです。ガイド役の地元愛知県支部では今から準備をはじめています。ツアーには会員が一緒ならご家族やお友達もご参加いただけますので、ぜひお誘い合わせください。皆で思い出になるツアーを作りましょう！

ツアー概要

催行日 2008年10/3(金)、4(土)1泊2日

集合 09:30/解散 15:30頃、共に豊橋駅(貸切バス使用)

宿泊: 伊良湖ビューホテル(愛知県田原市)

行程 1日目 豊橋～伊川津干潟(IBA)～伊良湖岬(恋路が浜、ホテル周辺)

2日目 伊良湖岬～初立池公園～大山～馬草口港～豊橋

参加費 お一人様¥28,000(ツインルーム2名様使用、1泊2日3食付、往復バス代込)

※ツインルーム1名使用は¥4,500増しとなります。

見られる野鳥 サシバ、ハチクマ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサなどタカの仲間たち、アマツバメ、イワツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エゾビタキ、メジロ、カモ類、オオミズナギドリ、カモメ類、オオアジサシ、サギ類、シギ・チドリ類、ミサゴ、イソヒヨドリなど。

企画 (財)日本野鳥の会 共催 (株)JTB 関東 協力 日本野鳥の会愛知県支部

お申し込み・お問い合わせ先 (株)JTB 関東 担当: 栗原

TEL: 048-650-0205 FAX: 048-650-0345 平日 09:30～17:30 土日祝日定休

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-5

(財)日本野鳥の会 常務理事付・丹羽 TEL: 03-5436-2628 niwa@wbsj.org

集合地(豊橋駅)までのキップ手配などもご相談ください(JTBが対応します)。

探鳥会報告 (08年4月～6月)

● 藤原岳山麓探鳥会

2008年4月6日(日) 9:00～12:00

いなべ市 藤原町

加藤光広・村田芳雄

参加者8名(会員8名)

カワウ、トビ、ケリ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス。計20種

観察コースでは、スズメよりホオジロの方が多くことにびっくり。カワウが鈴鹿山脈の麓にまで出現している事におどろき。

● 春の獅子ヶ岳メモリアル登山

2008年4月13日(日) 10:00～14:30

度会町 獅子ヶ岳

小坂里香・中西 章

参加者17名(会員11名 会員外6名)

トビ(1)、オオタカ(成1)、サシバ(1)、クマタカ(1)、ハヤブサ(ペア2)、キジバト(1)、アオバト(3)、アマツバメ(4)、アオゲラ(C)、コゲラ(2)、ツバメ(2)、ヒヨドリ、シロハラ(1)、ウグイス、キビタキ(S)、エナガ、コガラ(2)、ヒガラ(S)、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト(1)。計25種

注・C=地鳴き S=囀り

好天に恵まれ、登山日和となった。風力発電施設建設の工事内容と、アセスメントの調査が進行中であることを資料で説明すると、参加者の皆さんから「この自然をそんなに壊してまで風電施設を作るのは本当にもったいない」との声がかけられた。年内にもアセス準備書の縦覧が始まると思うので、是非意見を寄せてほしい。探鳥会では、コガラがスギの皮をむしって巣材集めをしたり、稜線を超えて飛んで行くサシバやアマツバメなどが見られた。頂上近くの岩場では、テンの姿が見られた。

● 五主海岸探鳥会

2008年4月20日(日) 9:30～11:30

松阪市五主町五主海岸

共催団体/日本湿地ネットワーク「干潟、湿地を守る日2008」

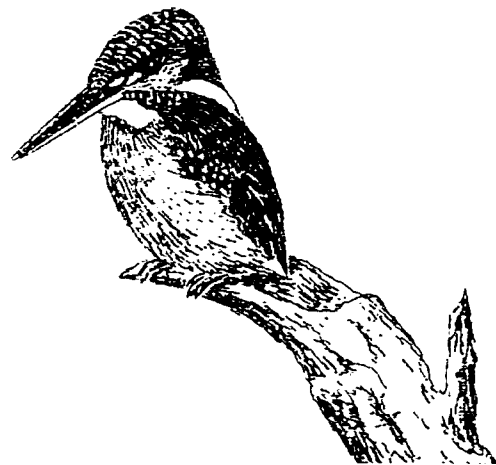
久住勝司・中西 章

参加者21名(会員15名、会員外6名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、トビ、オオバン、ミヤコドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ケリ、オオハシシギ、ツルシギ、アオアシシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、セッカ、メジロ、ホオジロ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス。計45種

五主海岸堤防工事未了及び潮干狩り客多数の為、探鳥会を1時間に短縮。

初めて五主海岸を訪れた人の為に五主海岸の概要と現況を説明。その後、三渡川河口左岸にある曾原新田養魚地付近に場所を移し、目的のツルシギ(12)、セイタカシギ(2)、オオハシシギ(1)、コムクドリ(5)の希少種、その他45種の観察が出来、喜んでもらえたようだ。唯、シマアジが見られなかったのが残念であった。



● 県民の森探鳥会

2008年4月26日(土)9:30~12:15

菰野町 三重県民の森

共催団体/三重県民の森

矢田栄史・辻 秀之

参加者 37名 (会員 12名、会員外 25名)

トビ、キジバト、ツツドリ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、ハシボソガラス、コジュケイ。計 26種

新緑の森をあるき、オオルリ、キビタキ、コサメビタキなどの夏鳥の声、姿を確認することができた。

2班に分かれて別々のコースを歩く。

鳥以外では、チゴユリの花やテングチョウ、ハンミョウなどの昆虫も観察した。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2008年4月27日(日)9:00~12:00

弥富市木曾岬町 鍋田・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

米倉 静・村田芳雄

参加者 16名

カイツブリ (2)、カワウ (40)、ダイサギ (2)、コサギ (3)、アオサギ (5)、カルガモ (20)、コガモ (100)、ハシビロガモ (20)、ホシハジロ (1)、キンクロハジロ (3)、トビ (1)、ノスリ (2)、チュウヒ (4)、ハヤブサ (1)、キジ (20)、ケリ (30)、クサシギ (2)、イソシギ (1)、チュウシャクシギ (4)、ユリカモメ (5)、コアジサシ (2)、キジバト (2)、ヒバリ (30)、ツバメ (20)、ハクセキレイ (1)、ヒヨドリ (1)、ツグミ (10)、セッカ (20)、カワセミ (1)、ホオジロ (2)、オオヨシキリ (1)、カワラヒワ (4)、スズメ (60)、ムクドリ (30)、ハシボソガラス (15)、ハシブトガラス (15)、ドバト (50)。計 37種

久しぶりに聞いたコアジサシ・チュウシャクシギの声や姿も見られた。

鍋田干拓地に入るシギ、チドリ類が年々減少しているようで寂しい。

頭の黒くなったユリカモメやツグミ・コガモ達もまもなく旅立っていくのだろう。

● 奥山権現探鳥会

2008年4月27日(日)10:00~12:30

伊賀市奥山権現

田中豊成・塗矢尋一

参加者 10名 (会員 4名、会員外 6名)

ツツドリ、アオゲラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、オオルリ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、カワラヒワ、スズメ。計 13種

オオルリ、ミソサザイ、カラ類等、山林の為、姿を見るのは難しかったが鳴き声は堪能できました。遠くでツツドリが鳴いてくれたのが良かった。又、神社近くの山道で、去年のウグイスの巣も観察できました。

● 志原水田探鳥会

2008年5月4日(日)9:00~12:00

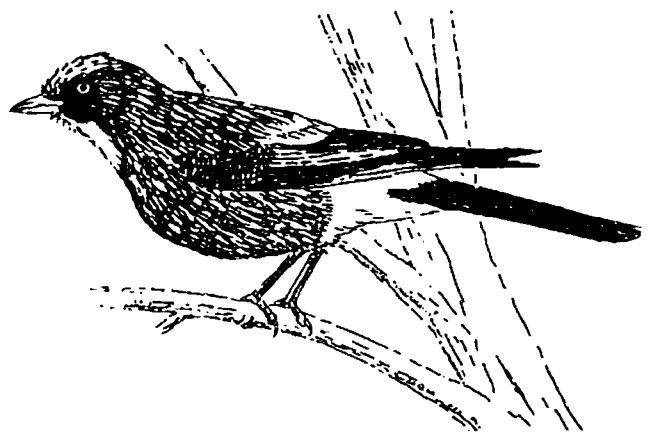
御浜町志原

中井節二・清水勝海

参加者 7名 (会員 2名、会員外 5名)

カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、キジ、ヒクイナ、セイタカシギ、キジバト、カワセミ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 25種

今年は、紀南地方はシギ・チドリの数、種類とも少なかったので、探鳥会までなにか来てほしいと思っていたら当日セイタカシギが入ってくれて、みなさん大喜びでした。



● 朝明源流探鳥会

2008年5月10日(土)

菰野町朝明溪谷

共催/鈴鹿ハイキング倶楽部

辻 秀之・川口久美

雨天中止

● 五十鈴川上流早朝探鳥会

2008年5月11日(日)

伊勢市宇治館町

竹林 廉・林 淳子

雨天中止

● 野登山探鳥会

2008年5月11日(日)

亀山市 野登山

石原 宏・岡 八智子

悪天候により中止

● 海蔵川探鳥会

2008年5月20日(火) 9:40~11:30

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

尾畑玲子・高 和義

参加者7名(会員6名、会員外1名)

カイツブリ(3)、カワウ(4)、ササゴイ(1)、ダイサギ(1)、チュウサギ(1)、アオサギ(1)、カルガモ(14)、キジ(1)、イソシギ(1)、キジバト(1)、ホトトギス(1)、カワセミ(1)、ヒバリ(2)、ツバメ(11)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(2)、セッカ(1)、シジュウカラ(1)、メジロ(1)、ホオジロ(5)、カワラヒワ(4)、スズメ(16)、ムクドリ(8)、ハシボソガラス(6)、ドバト(4)。計27種

雨、風の予報が効きすぎたのか、もち直した好天のわりに参加者は少ない。しかし、野鳥は27種確認できた。開催直前に一部の人が見たアマサギを加えると28種。ホトトギスが遠くで鳴いた

のを2度聴いた。風が強く、予定よりはやくコースを終えた。

● 木曾干拓地探鳥会

2008年5月25日(日) 9:00~11:30

弥富市木曾岬町 鍋田・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝・米倉 静

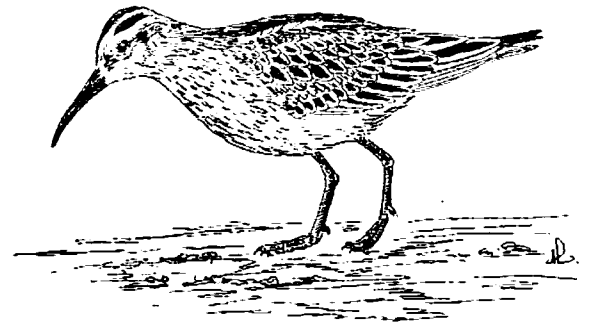
参加者12名

カワウ(50)、アマサギ(1)、ダイサギ(4)、チュウサギ(4)、コサギ(1)、アオサギ(5)、マガモ(2)、カルガモ(15)、コガモ(1)、ミサゴ(4)、チュウヒ(3)、キジ(10)、ケリ(20)、キアシシギ(3)、チュウシャクシギ(5)、コアジサシ(7)、キジバト(15)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、ツバメ(6)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(1)、オオヨシキリ(5)、セッカ(30)、カワラヒワ(1)、スズメ(40)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(6)、ドバト(30)。計30種

始めるまでは、大雨が心配されたが、探鳥会開始時間に雨はやんだ。

木曾岬干拓地では今年もチュウヒが繁殖している。空中での餌渡しを観察できた。

チュウシャクシギ4羽が堤防の上で羽を休めていた。



三重県支部は、地元の活動団体と協力してこの問題について対応を協議しています。支部会員の川村さんは、地元住民でつくられた「鳥羽の自然と環境を守る会」の事務局長をつとめています。

行者山風力発電所建設計画（以下行者山風力）は、一昨年8月末に事業者が各種申請や届出を取り下げて計画が断念されたものと思われていました。

ところが昨年秋に、鳥羽消防署横の空き地でタカ渡りを観察する調査員の姿があり、調査の結果、風力発電の大手業者である(株)ユーラスエナジー ジャパン（東京電力系、以下ユ社）と(株)ウインドテック（豊田通商系、以下ウ社）の2社が、地元業者である(株)鳥羽ウインドファーム（以下TWF）をバックアップするとして行者山風力に参画したことが判明しました。この時既にユ社とウ社は鳥羽市及び地権者と地元町内会に挨拶を済ませており、私たちも行者山風力反対運動を本格的に再開しました。

ところで私たちは、なぜ問題の多い行者山風力にユ社とウ社のような大手事業者が参画したのかという疑問があり、本年3月初旬に両社に対し、行者山風力への参画を思いとどまるようお願いする「上申書」を送付し、その中で行者山風力の問題点や地元事情について説明したいという申し入れを行いました。その結果、3月末になって、ユ社から私たちの話を聞くため鳥羽へ出向く旨の連絡があり、4月7日の夜に現地で会合を持ち、8日には現地を案内することになりました。

私たちはユ社とウ社への働きかけとは別に、鳥羽市議会議員の皆様には昨年末より文書を送付して風力発電の問題点などを説明する活動を続けており、4月7日の会合にも市議の皆さんに出席をお願いした結果、7名の皆さんに出席していただくことができました。

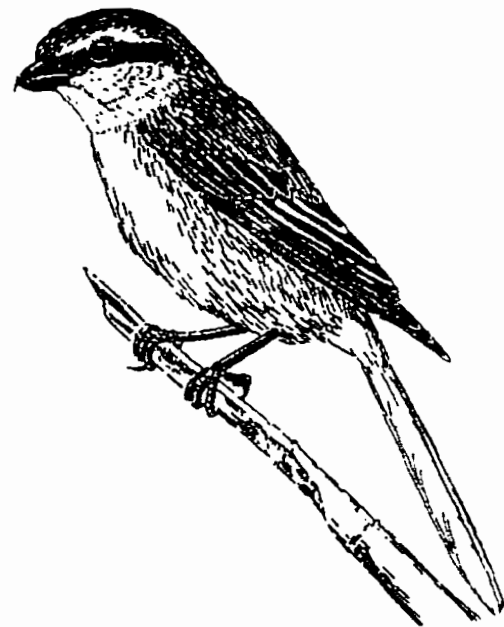
4月7日の説明会は、市議の皆さんや建設反対

を表明している落口町内会役員、野鳥の会三重県支部の竹林理事の出席のもとで行われ、ユ社とウ社は一定の理解を示してはくれましたが、行者山風力建設の方針には変わりがないという印象を受けました。

このため、この時点で行者山風力反対に理解を示して下さる市議が市議会16名中10名になっていたことを踏まえ、私たちは直近の6月市議会で請願を上げ、反対決議を求めることにしました。結果は請願採択、反対決議とも、これに反対する者は2名のみという、思いがけない大差で私たちの主張が認められることになりました。

市議会の反対決議に法的拘束力はありませんが、自治体の議会が反対決議を行ったという事実は大変に重いものがあり、仮にこれを受けてユ社とウ社が建設を断念しなくとも、関係官公署の許認可の判断には大きな影響を与えるものと考えています。

これからも、問題のあるところには建設しないという、当たり前前の判断を事業者が行う前例になることを私たちは願っています。



北勢地区 地区会情報

北勢地区では毎月第二土曜日に、日本野鳥の会三重県支部事務所（四日市市元新町4）で地区会を開催しています。今後の予定を、お知らせします。

8月はお休み 9月13日10時地区会 10月以降については下記の行事のため未定です。

10月11日（土）11月9日（日）12月13日（土）の3日は9:00～11:00に
「 — いなべ学びのプラザ — バードウォッチング入門」を開催します。

開催場所 三重県立いなべ総合学園高等学校

いなべ市員弁町御園632 TEL0594-74-2006(代表)

内容は 教室での野鳥観察の基本的な講義と、員弁川と田圃での野鳥観察です。

北勢地区会、上記行事の問い合わせは、

近藤義孝 E-mail:fwwhy4368@mb.infoweb.ne.jp TEL0594-48-3260

しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

59号は通常印刷ですが、60号はカラー印刷を考えています。自慢の野鳥写真を募集します。投稿をお願いします。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail:fwwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼521

編集後記

チュウヒサミット2008を開催することができました。「今回は補助金をもらえると、海外のチュウヒ研究者を呼んで、国際シンポジウムとして開催できるかも」と本部の方から大きな話を聞きました。しかし、(財)日本野鳥の会は財政難で、ストリクスも休刊しました(実質廃刊なのか?)。日本の環境、そして地球環境を守るには(財)日本野鳥の会は欠くことができない組織だと思えます。そして、私たちもその一員として積極的に関わっていく必要があると考えています。Y.K.

しろちどり 58号

2008年7月12日発行

題 字:濱田 稔

表紙絵:北川和則

カット:平井正志、鹿島素子

写真:高 和義、西村 泉、前田 崇

編集:近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所:日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷:東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48